

4. 情報オリンピック

IOI 情報オリンピック

年度	平成26年度 実績 (2014年)				平成27年度 実績 (2015年)				平成28年度 実績 (2016年)				平成29年度 予定 (2017年)							
国際大会	開催地				台湾(7月)				カザフスタン(7月)				ロシア(8月)				イラン(8月)			
	参加国・地域数				81				83				84				約80			
	参加者数				311名				322名				308名				約320名			
	日本代表				金 1				金 3				金 2							
	成績 (4名)				銀 2 銅 1				銀 2 銅 1				銀 2							
	国別順位※1				11				5				4							
研修・教育				<ul style="list-style-type: none"> ●通信教育(オンラインコンテスト) ●APIO参加(5会場29名) ●派遣直前合宿研修(4名) ●春季合宿研修(約19名) 				<ul style="list-style-type: none"> ●通信教育(オンラインコンテスト) ●APIO参加(6会場59名) ●派遣直前合宿研修(4名) ●春季合宿研修(20名) 				<ul style="list-style-type: none"> ●通信教育(オンラインコンテスト) ●APIO参加(5会場35名) ●派遣直前合宿研修(4名) ●春季合宿研修(14名) 				<ul style="list-style-type: none"> ●通信教育(オンラインコンテスト) ●APIO参加(6会場60名) ●派遣直前合宿研修(4名) ●春季合宿研修(20名) 				
国内大会	選抜試験 参加者				19名(2015年3月)				20名(2016年3月)				14名(2017年3月)				約20名			
	本選 参加者				77名(2015年2月) <国立オリンピック記念青少年総合センター>				76名(2016年2月) <茨城県つくば国際会議場>				87名(2017年2月) <茨城県つくば国際会議場>				約90名 <茨城県つくば市>			
	予選 参加者				1121名(12月) <ウェブ上オンライン>				998名(12月) <ウェブ上オンライン>				1052名(12月) <ウェブ上オンライン>				<ウェブ上オンライン>			
					うち中学生以下		うち高校生以上		うち中学生以下		うち高校生以上		うち中学生以下		うち高校生以上		うち中学生以下		うち高校生以上	
					男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
					137	15	891	78	125	14	781	78	124	10	850	68				
広報・普及啓発 その他活動				<ul style="list-style-type: none"> ●指定校制(27校) ●夏季セミナー(4泊5日26名) ●地域密着学習支援講習会(8箇所) ●ジュニア大会(ビーバー・コンテスト) 世界36カ国92万名、国内4500名参加				<ul style="list-style-type: none"> ●指定校制(27校) ●夏季セミナー(4泊5日約25名) ●地域密着学習支援講習会(8箇所) ●ジュニア大会(ビーバー・チャレンジ) 世界38カ国131万名、国内3900名参加				<ul style="list-style-type: none"> ●指定校制(29校) ●夏季セミナー(4泊5日約25名) ●地域密着学習支援講習会(8箇所) ●ジュニア大会(ビーバー・チャレンジ) 世界40カ国153万名、国内4100名参加				<ul style="list-style-type: none"> ●指定校制(27校) ●夏季セミナー(4泊5日約25名) ●地域密着学習支援講習会(8箇所) ●ジュニア大会(ビーバー・チャレンジ) 				

※1: 国際大会では個人成績のみが公表され、国別順位については公式な発表がありません。個人成績をもとに独自に作成した国別順位であり、公式資料ではありません。

第30回国際情報オリンピック日本大会 (IOI2018)

- 1.開催期日 2018年9月1日(土)から8日(土) 7泊8日
- 2.開催場所 茨城県つくば市
つくば国際会議場、つくばカピオ
- 3.開催規模 参加国数 85カ国、
(予定) 参加人数 選手320名
総人数 約860名
- 4.予算規模 総額約3億円
- 5.開催内容 開会式、閉会式/表彰式
競技 5時間/日を2回
文化交流 全日を2回 他

5. 生物学オリンピック

I B O 国際生物学オリンピック

年度		平成26年度 実績 (2014年)	平成27年度 実績 (2015年)	平成28年度 実績 (2016年)	平成29年度 予定 (2017年)											
国際大会	開催地	インドネシア (7月)	デンマーク (7月)	ベトナム (7月)	イギリス (7月)											
	参加国・地域数	61	61	68												
	参加者数	239名	239名	263名												
	日本代表	金 1	金 1	金 1												
	成績 (○名)	銀 3	銀 2 銅 1	銀 3												
	国別順位※1	9位	10位	5位												
研修・教育		●特別教育 3回 (6名) ●個別教育 (6名) ●通信教育 (15名)	●特別教育 3回 (6名) ●個別教育 (5名) ●通信教育 (15名)	●特別教育 3回 (6名) ●個別教育 (5名) ●通信教育 (15名)	●特別教育 3回 (予定) ●個別教育 (予定) ●通信教育 (予定)											
国内大会	選抜試験 参加者	15名 (3月)		15名 (3月)		16名 (3月)		15名 (3月) 予定								
	本選 参加者	80名 (8月) <筑波大学>		80名 (8月) <広島大学>		80名 (8月) <筑波大学>		80名 (8月) 予定 <広島大学>								
		3, 265名(7月) <全国102会場>		3, 433名(7月) <全国103会場>		3, 469名 (7月) <全国102会場>		(7月) <全国103会場予定>								
	予選 参加者	うち中学生以下	うち高校生以上		うち中学生以下	うち高校生以上		うち中学生以下	うち高校生以上							
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
		101	28	1470	1666	70	34	1554	1775	93	47	1501	1828			
広報・普及啓発 その他活動	●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会・科学館に配布 ●高校向けフォーラムの開催 ●教員等を対象とした研修会 ●同窓会との交流 ●日本代表者の表彰式 (8月本選会場にて) ●サイエンスカフェ (本選参加者向け)				●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会・科学館に配布 ●高校向講座への講師派遣 (4回) ●教員等を対象とした研修会等への講師派遣 (3回) ●同窓会との交流、代表団への参加 ●日本代表者の表彰、本選参加者との交流 (8月広島大学)				●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会・科学館に配布 ●高校向講座への講師派遣 (3回) ●教員等を対象とした研修会等への講師派遣 (3回) ●同窓会との交流、代表団への参加 ●日本代表者の表彰、本選参加者との交流 (8月筑波大学)				●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会・科学館に配布 (予定) ●高校向けフォーラムの開催、講師派遣 (予定) ●教員等を対象とした研修会開催、講師派遣 (予定) ●同窓会との交流 (予定) ●日本代表者の表彰、本選参加者との交流 (8月本選会場にて予定)			

※1：国際大会では個人成績のみが公表され、国別順位については公式な発表がありません。個人成績をもとに独自に作成した国別順位であり、公式資料ではありません。

国際生物学オリンピック日本委員会 1年間の活動

第27回国際生物学オリンピック(IBO2016)

■ 第1回特別教育(3.29-31)

東邦大学

■ 第2回特別教育(4.29.5.1)

東邦大学

■ 第3回特別教育(6.11-12)

科学技術館

■ 個別教育(4~7月)

(北海道大学、お茶の水女子大学、甲南大学、
神戸大学、宮崎大学、鹿児島大学)

以上、参加6名(日本代表・次点)

■ 国際大会(於:ベトナム大会・ハノイ)参加(7.17-24)



代表全員がメダル(金1、銀3)、国別順位(5位)

日本生物学オリンピック2016

■ 予選(7.17)全国102会場 参加3,469名

上位5%(177名)に優秀賞、続く上位5%(170名)に優良
賞授与

■ 本選(8.19-22)筑波大学 参加80名

金賞11名、銀賞9名、銅賞21名

日本代表候補16名を選抜



■ 冬期特別セミナー(12.24-26)東京大学

参加16名(日本代表候補)



■ 代表選抜試験(2017.3.20)

代表4名・次点者2名を選抜。参加者15名には「ファイナ
リスト特別賞」

第28回国際生物学オリンピック(イギリス大会)へ

6. 地理オリンピック

iGeo 国際地理オリンピック

年度	平成26年度 実績 (2014年)		平成27年度 実績 (2015年)		平成28年度 実績 (2016年)		平成29年度 予定 (2017年)									
国際大会	開催地	ポーランド(8月)		ロシア(8月)		中国(8月)		セルビア(8月)								
	参加国・地域数	36		40		45										
	参加者数	144名		159名		172名										
	日本代表 成績 (4名)	銀 1		銀 3 銅 1		銀 2 銅 1 ※2										
	国別順位※1	15位		5位		11位										
	研修・教育	●強化合宿6月/7月		●強化合宿6月/7月		●強化合宿6月/7月		●強化合宿6月/7月								
国内大会	日本代表候補	4名(3月) ※3		4名(3月) ※3		4名(3月) ※3		2018年3月決定予定								
	第二次選抜 参加者	142名(2月) <全国12会場>		128名(2月) <全国11会場>		128名(2月) <全国10会場>										
	科学地理オリンピック 日本選手権 第一次選抜 参加者	1,337名(1月) <全国40会場>※4		1,409名(1月) <全国44会場>※4		1,078名(1月) <全国47会場>※4		2017年12月実施予定								
		うち中学生以下	うち高校生以上	うち中学生以下	うち高校生以上	うち中学生以下	うち高校生以上	うち中学生以下	うち高校生以上							
		男	女	男	女	男	女	男	女							
		168	3	781	385	90	6	897	416	95	3	714	266			
広報・普及啓発 その他活動	●ポスター・募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会に配布 ●地理学関係学会での報告・広報 ●科学の甲子園での広報		●ポスター・募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会に配布 ●地理学関係学会での報告・広報 ●科学の甲子園での広報		●ポスター・募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会に配布 ●地理学関係学会での報告・広報 ●科学の甲子園での広報		●ポスター・募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会に配布 ●地理学関係学会での報告・広報 ●科学の甲子園での広報									

※1: 国際大会では個人成績が重視されており、国別順位については代表の数が異なる場合もあり、国ごとの比較ができない場合があります。ここに示す順位は参加各国選手の個人成績をもとに独自に作成した国別順位です。

※2: 国別に成績が審査されるポスターセッションでは優秀賞を獲得した(上位4位)。

※3: H25年度より、第二次選抜で約10名を選抜し、その後、第三次選抜を実施し、代表選手4人を選考することになった。

※4: 一般会場と特例校会場を含む。

コンテスト名：科学地理オリンピック日本選手権

1. 国内大会での成果			
	28年度 実績	27年度 実績	前年比(%)
申込者数	1207名	1561名	77.3%
参加者数	1078名	1409名	76.5%
女子参加比率	25%	30%	—
参加学校数	161校	158校	101.9%
試験会場数	47ヶ所	44ヶ所	106.8%
その他の特筆すべき成果	実施時期が冬休みとかぶってしまった学校も多かったため、前年よりも申込者数・参加者数ともに減少する結果となってしまった。だが、地理オリンピックに関心をもつ先生方が徐々に増え、それに伴い参加学校数・試験会場数が昨年より増加した。		
2. 国際大会での成果			
大会成績	銀メダル2、銅メダル1と日本代表3名がメダルを獲得するとともに、国別に成績が審査されるポスターセッションでは、初の優秀賞(上位4位)を獲得した。		
その他交流等で得られた成果	大会開催国の中国はもとより、参加各国・地域の文化に直接触れることで、参加生徒の視野も広がった。また、参加生徒どうしが国をこえてメールなどでの情報共有も昨年と同様、活発になされている。		
3. 広報普及活動の実績			
昨年同様、高校の先生方がポスター、パンフレットを見て、生徒への受験を熱心に勧めるようになってきた。また、新聞社などのマスコミも選手のインタビュー記事を掲載してくれるようになった。			

コンテスト名：科学地理オリンピック日本選手権

4. 当年度計画の達成状況、得られた効果(当年度特有の取り組みがあれば併せて記載)

・今年度の日本代表選手の選出にあたって、マルチメディア試験(一次選抜)、記述式試験(二次選抜)、フィールドワーク試験(三次選抜)の成績結果をもとにした。とりわけ、一昨年度より三次選抜試験を導入したことで、これまで弱点であったフィールドワーク能力の向上が図られたほか、高校の先生方にとっても、地理授業でのフィールドワークのモデルを示すきっかけとなった。このことはまた、新学習指導要領で平成34年(2022年)度より必修化が決定している「地理総合」の実践への足がかりととらえることができる。

・強化合宿では、フィールドワーク試験(東京都武蔵野市・小金井市)と、記述試験(埼玉県草加市)の対策に分け、選手たちの居住地から日帰りできる範囲で、2回に渡って実施した。世界大会でのチームリーダー経験を持った日本人の委員とともに、ネイティブの、実際に国際大会の採点にもかかわった委員が前面に立って指導をしてくださったので、ポイントが整理しやすく、好評であった。メダルを獲得した選手は、フィールドワーク試験と記述試験の結果がおおむね良好で、合宿の成果が出たといえる(国際地理オリンピックは、英語での出題・解答)。

5. 前年度評価時のコメントへの対応状況

・国内大会へのさらなる参加者の増加については、日程面の関係で達成ができなかった。次年度は学校が冬休みに当たらない時期に実施時期をずらすなどの検討をしていきたい。

・世界大会での複数メダルの獲得も、強化合宿の成果として成し遂げることができたが、昨年と異なり代表全員が獲得することができなかった。今後は、金メダルの獲得も視野に入れながら、強化合宿等を通じてさらなる対策を講じていきたい。

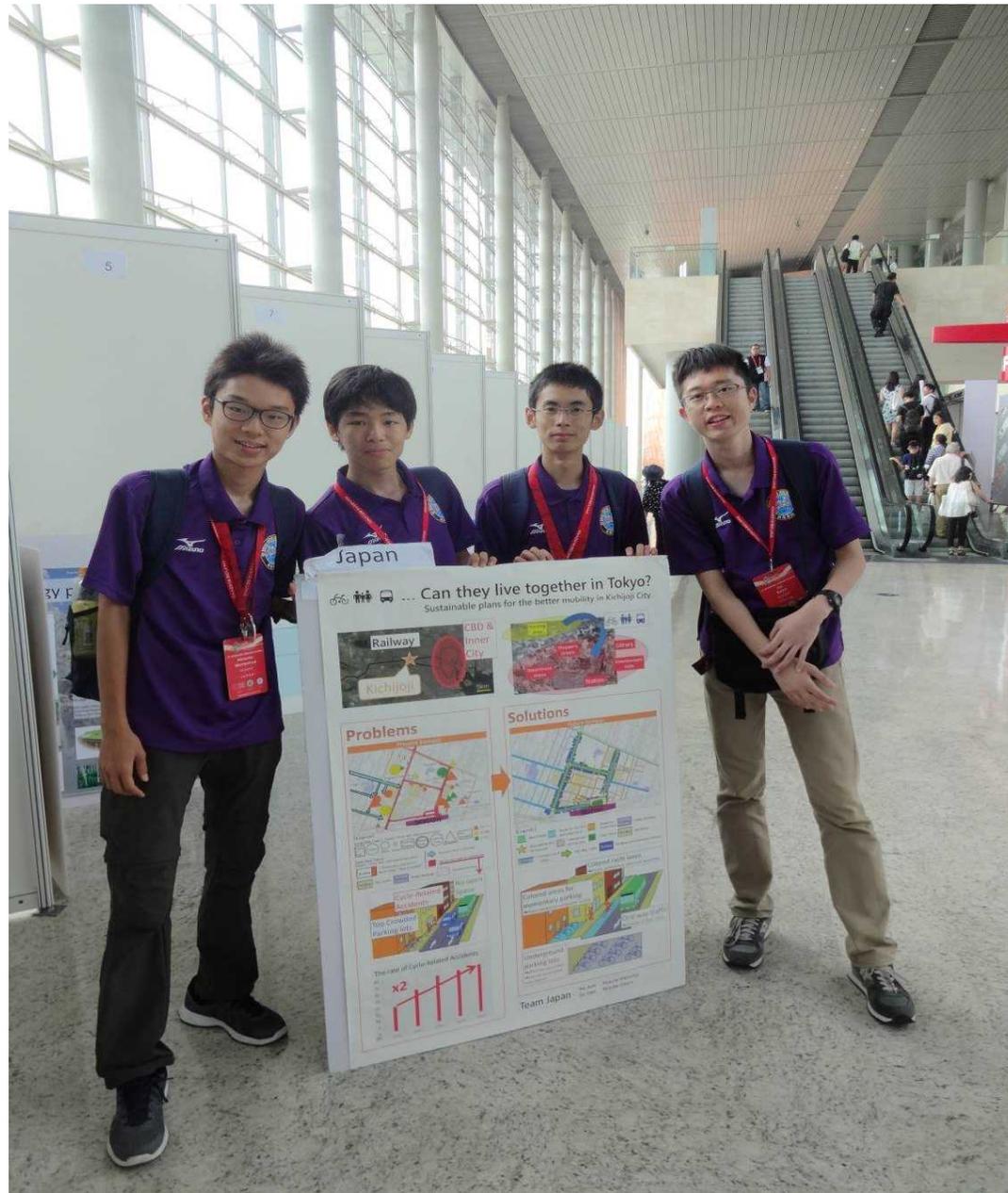
・フィールドワーク対策はもとより、記述試験対策については、強化合宿によりある程度の成果を収めたものとする。今後もさらなる「地理的能力」の向上を目指していきたい。



メダリスト表彰式終了後の日本代表選手たち



北京市内のエクスカーショでマカオ代表と記念撮影



優秀賞に選ばれたポスターを前に

7. 地学オリンピック

IESO 国際地学オリンピック

年度		平成26年度 実績 (2014年)	平成27年度 実績 (2015年)	平成28年度 実績 (2016年)	平成29年度 予定 (2017年)						
国際大会	開催地	スペイン (9月)	ブラジル (9月)	日本 (8月)	フランス (8月)						
	参加国・地域数	21	22	26							
	参加者数	82名※2	85名※3	100名※4							
	日本代表	金 3	金 1	金 3	金						
	成績 (○名)	銀 0	銀 1	銀 1	銀						
		銅 1	銅 2	銅 0	銅						
	国別順位※1	2位	5位	2位							
研修・教育		・通信研修 4-8月 (4名) ・合宿研修 (5月：秩父：4名)	・通信研修 4-8月 (4名) ・合宿研修 (5月：秩父：4名)	・通信研修 4-8月 (4名) ・合宿研修 (5月：秩父：4名)	・通信研修 4-8月 (4名) ・合宿研修 (5月：秩父：4名)						
国内大会	選抜試験 参加者	10名 (3月)		10名 (3月)		10名 (3月)		(2018年 3月)			
	本選 参加者	63名 (3月) <全国1会場>		60名 (3月) <全国1会場>		57名 (3月) <全国1会場>		(2018年 3月) <全国1会場>			
		1868名 (12月) <全国77会場>		1748名 (12月) <全国78会場>		1594名 (12月) <全国72会場>					
	予選 参加者	うち中学生以下	うち高校生以上		うち中学生以下	うち高校生以上		うち中学生以下	うち高校生以上		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
106		18	1291	453	103	20	1218	407	141	23	970
広報・普及啓発 その他活動		・日本地球惑星科学連合2014大会出展 (横浜：5月)・地質情報展 (鹿児島：9月)・ニューズレター「チオリン」2回発行・ジュニアセミナー開催 (東京8月)		・日本地球惑星科学連合2015大会出展 (幕張：5月)・地質情報展 (長野：9月)・ニューズレター「チオリン」1回発行・フューチャーアーススクール開催 (東京11回)・未来ガイド作成配布		・日本地球惑星科学連合2016大会出展 (幕張：5月)・横浜市民セミナー出展 (横浜：7月)・地質情報展 (東京：9月)・ニューズレター「チオリン」2回発行・フューチャーアーススクール開催 (東京8回、大阪・広島各1回)・未来ガイド作成配布		・日本地球惑星科学連合2017大会出展 (幕張：5月)・地質情報展 (秋田：9月)・ニューズレター「チオリン」2回発行・フューチャーアーススクール開催 (東京、地方2回)・未来ガイド作成配布			

※1：国際大会では個人成績のみが公表され、国別順位については公式な発表がありません。個人成績をもとに独自に作成した国別順位であり、公式資料ではありません。

※2：三重県から参加の本選出場生徒1名をゲスト生徒としてスペイン大会に引率。(成績：銀メダル相当)

※3：三重県から参加の本選出場生徒1名をゲスト生徒としてブラジル大会に引率。(成績：銅メダル相当)

※4：本選出場生徒3名がゲスト生徒として日本大会参加。(成績：金メダル相当1名、銀メダル相当2名)

三重県からの成績優秀生徒2名がゲスト生徒として日本大会参加。(成績：銅メダル相当2名)

地学オリンピックの1年

前年度 12月 一次選抜
(全国の大学・高校会場)

前年度 3月 二次選抜(筑波大学)



実技鑑定



とっぷレクチャー

前年度 3月 日本代表選抜(筑波大学)



英語討論

5月 野外研修(秩父)



8月 国際大会 (日本大会)



8月 研修(筑波大学)



広報(チオリン・未来ガイド)



第10回国際地学オリンピック・日本大会 報告

- 2016年8月20日(土)～8月27日(土)
三重県 (主会場 三重大学 (津市))

20日 到着

21日 開会式(伊賀上野)

22日 研修(伊勢)

23日 筆記試験

24日 実技試験

25日 国際協力野外調査

26日 同発表 さよならパーティー

27日 閉会式、出発

- 26カ国 高校生100名参加

- 三重県高校生の参加協力

実行委員会、宇治山田商業高校、木本高校、白子高校など220名

- 組織委員会: 委員長 平 朝彦 海洋開発研究機構 理事長
副委員長 鈴木英敬 三重県知事
副委員長 駒田義弘 三重大学長

- 日本チームメダル結果 金3名、銀1名 (2位)
(ゲスト生徒 金相当1名、銀相当2名、銅相当2名)



